



発行所  
株式会社 ホンマ電機  
神奈川県相模原市上鶴間1丁目12-1  
電話 042(746)1616(代)  
ホームページ **ホンマ電機** 検索  
発行責任者 本間俊三

### BUSINESS フィールド

(株)コーマー様は、主に自動車部品や精密機械部品等を製造する中堅メーカーです。特にベアリング関連製品については、特殊品、少数種物品等、試作開発後の標準生産を引き受け、生産になるまでの、つなぎの生産を主体としておられます。

**空調機の更新**  
一般的に工場内は熱負荷が大きく、作業環境確保と製造機械の熱処理には水冷方式がとられています。空調機の性能向上に伴いこの度、エアコン更新にあたって、作業環境改善用として空冷機を提案させて頂きました。

今回提案のダイキン新冷媒設備用スーパージアシリーズは、COP(エネルギー消費効率)を高め、消費電力が更に改善され、汚れやすい現場にあっては洗浄しやすく便利



主要製品  
シートベルト部品



(株)コーマー



中央がホンマ電機の万灯



相模大野中央公園での万灯祭り



シャボン玉が舞い上がると子供たちは夢中で追いかけます



模擬店も賑わっています

### 空調機更新・空冷化実施

なごなどが、大きな特徴となっています。

また、オフィス・会議室用としては、省エネに優れた実績を持つダイキン・スカイエアシリーズは省エネだけでなく、環境・快適性・清潔性においても優れており、自信を持ってお勧めできます。

## 平成19年10月12日(金) 第24回 電気工事業全国大会開催

復興神戸から発信・電気工事業界の未来を語る



大会シンポジウム



防災関連商品の展示会

提案型技術営業  
さらに会長は、私たち電気工事業界がこれまで間接受注中心で、ともすれば地域社会の皆様やお客様との接点をおろそかにしていた一面があった。そのような反省に立って、工事施工後のアフターフォローを通じてお客様との信頼関係を確立し、その信頼にお応えできる「提案型技術営業」の構築が必要であると語りました。

\*スライドに事例を紹介します。

復興 神戸から  
今年の大会テーマは、「復興神戸から発信 電気工事業界の未来を語る」で、サブテーマは①環境と安心・安全で顧客と社会に貢献、②社会変化、ニーズに対応した方策の確立と推進です。電気工事業界の進むべき道を共に議論し、今後の業界のあり方を探り出そうとの狙いがあります。

大会の役割  
本大会主催者でもある全日本電気工業業組合連合会小澤浩二会長は挨拶の中で、二十四回大会を迎え、本大会が開催地の皆様に我が業界の  
また、この十年の政治経済における激動ぶりに触れ、私たち中小電気工事業界の厳しい現状も語られました。そこで、開催地神戸を引き合いに出し、震災を克服し立ち直った事例から私たちは多くを学ばなければならぬと訴えました。そしてテーマを「復興 神戸からの発信・・・」とした根拠には、復興に果たした電気工事業界の役割も大き

第二十四回電気工事業全国大会がさる十月十二日(金)、神戸ポートピアホテルで開催されました。大会参加者は全国各県の電気工事業代表者約二千二百名で、大会前日の十一日(木)は青年部六百名が参加して意見交換会が行われました。



相模原から参加した役員

式典の後に  
行われたシンポジウムでは、復興が単なる工事需要増加への期待であってはならないし、むしろ業界は社会への貢献として電気工事業を推進することが業界繁栄の基になるとの考えも述べられました。市民が強く望む安心・安全への期待にも「地域社会に貢献する電気工事業の理念が求められる」と纏められました。

## ホニマ電機 万灯の煙突からシャボン玉

### ⑤0 近況報告



このイメーシングはサイエンスクックとして登録されています。

相模大野の万灯祭りがさる十月六日(土)、七日(日)に開催、「新しい街、だから歴史を創る」として今年で十八回を数えます。  
会場は相模大野駅前からコリドーを含めて、相模大野中央公園にかけて繰り広げられました。谷口鼓笛隊パレードや相模女子大のチアリーディ

シャボン玉が舞い上がると子供たちは夢中で追いかけます

模擬店も賑わっています

新入社員紹介

本間 賢明 (マサキ) (31歳)  
入社 平成19年7月  
電気工事士(第1種)  
電気工事サービス



大屋 公一 (38歳)  
入社 平成19年8月  
電気工事見習い  
電気工事サービス



吉田 一哉 (33歳)  
入社 平成19年8月  
電気工事士(第2種)  
電気工事サービス



宮崎 陽輔 (22歳)  
入社 平成19年9月  
電気工事士(第2種)  
電気工事サービス



を  
支  
え  
る  
電  
機

社  
員  
の  
近  
況



ホンマ電機が特設記事で紹介された本

「電機と工事」  
この本は、現場技術者の実務雑誌として五十二年間継続発行している全国誌です。電気工事に関わる方なら一度は手にされたことがあり、電気工事士資格の受験生にとって、必読書と言ってもよい雑誌です。

オール社発行  
**電 気 と 工 事 の**  
事例特集に  
(株)ホンマ電機を紹介

特 設 記 事

(本文記事より掲載)

電気工事会社の提案型技術営業

これまでの中小の電気工事会社では、ハウスメーカー、工務店、ゼネコンなどの建築会社から仕事を受注する、間接的な営業が主体でありました。しかし、景気変動など外的な要因に左右されやすく、主体的に対応することが困難であること、またエンドユーザーに直接評価されにくいことやその評価が次の仕事に直接結びつきにくいなどの問題点がありました。

これに対して、エンドユーザーへのダイレクトなアプローチを意識する「提案型技術営業」が、全日本電気工事業工業組合連合会を中心に提案され、注目されています。本誌でも今年の十一月号に「提案型技術営業」の概要を掲載、また実践されている工事会社を紹介し、反響を呼びました。



ホンマ電機が2頁にわたって紹介された記事

本特設記事ではホンマ電機の「提案型技術営業」について、要約しますと次のように述べています。安定性のあるメンテナンス工事を中心に365日24時間の保守サービス体制を確立し、顧客カウルを作成し、お客様本位の立場での営業活動によって信頼関係とニーズをつかみ、経営基盤を築いてきました。と紹介されています。

● 企業ルポ

● お客様紹介 ⑤3

学校法人 日本聾話学校

併設・難聴幼児通園施設 ライシャワ・クレマ学園  
〒195-0063 東京都町田市野津田町並木1942



校長 西海 昭延氏

TEL 042-735-2361 (代)  
FAX 042-734-8292

ホームページ <http://www.nrg.ac.jp/> E-Mail [nrgz@nrg.ac.jp](mailto:nrgz@nrg.ac.jp)



校内入口と柵門の外にある今は懐かしいポスト



幼稚部年長組、グループ指導

学校法人 日本聾話学校  
・創立 1920年4月(大正9年)  
・理事長 佐伯 邦男氏  
・校長 西海 昭延氏  
・教職員数(非常勤含む) 73名  
・生徒数 88名

同校は元駐日アメリカ大使ライシャワ博士のご両親A.K.ライシャワ博士夫妻(宣教師)によって設立された日本で最初の口話法による、日本唯一の私立キリスト教主義聾学校です。

ご夫妻は聴力を失った令嬢が、アメリカの口話法の聾学校教育で立派に話せることができた成果を日本での教育にもと、口話法教育経験者で宣教師でもあるミス・クレマの協力を得て、東京の福音教会に学校を創立されました。

同校では難聴幼児が電子工学による優れた補聴器や人工内耳を活用して音声を聞き分ける力

を養い、話せるようになるために乳幼児から残存聴力を活用する早期教育を行っています。昭和52年5月には児童福祉法による難聴幼児通園施設ライシャワ・クレマ学園を開校、同校が最も力を注ぐ0歳から就学前までの幼児教育を実施しています。また、赤外線補聴システムを活用しての幼稚部、小・中学部へと一貫した聴覚主導の教育を経て普通高校や大学への進学も可能となりました。

同校の特色、オーディオロジー部では一人ひとり聴力検査をし、補聴器や人工内耳の最適な保守



補聴器特性検査室(検査・調整・フィッティングを専門スタッフが行う)

のために管理用の機器を設置して補聴器フィッティングを行っています。次いで対話を中心としたインタラクションも大きな特色です。子どもが何を思い考えているかを聞いてあげながら、話題を広げ対話の楽しさを体得させる心を育てる教育です。「相手を思いやる心を育む」など西海校長は、障害児をもつ両親への基本的な考え方の指導も重視しています。また、こうした教育の運営資金の2割は全国の団体や個人の支援により賄われており、感謝しているとのこと。ホンマ電機は20余年、補聴器設備の配線や学校支援をしています。



聴力検査室